

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣



令和四年度十月 入賞句一覧

投句数 千三百三十八句

特選

遠藤 幹郎 選

パンパンのポケットの中団栗だ

大垣市

神谷 咲希 (小六)

「パンパンのポケットの中」がいいですね。作者は、落ちたどんぐりを、ポケットがパンパンにふくれるほど拾ったというのです。沢山どんぐりを拾えた喜びが、よく伝わってくる一句です。読み手は、その拾った沢山のどんぐりで、どんな遊びをしたのか聞きたくなりますね。秋の野山を散策するのも楽しいですね。

長いかげいつしよに帰える秋の暮

大垣市

木下 明里紗 (小五)

「長いかげいつしよに帰える」がいいですね。立秋を過ぎると、日暮がだんだん早くなつてきます。作者も下校するとき、自分の前にできるかげが、長くなつてきたと実感したのでしよう。晩秋の日暮が早くなつたことや、自分のかげが長くなつたことを表す「秋の暮」という季語を、うまく自分の句に使えています。

秋の空夕日の絵の具でそまつてる

大垣市

金森 愛来 (小三)

「夕日の絵の具でそまつてる」がいいですね。夕日に染まつた秋の空を、「夕日の絵の具」で染まつたと言いつたところが巧みです。春、夏、秋、冬の季節に見られる夕日の色合いは、それぞれに特徴があります。静かにやわらかく、夕日が西の空を染めているようすが表現できました。

秀逸

ひまわりがおおきすぎてねまいごだよ

大垣市

おおの はつき (小三)

空みあげ赤いもみじが空かくす

大垣市

田中 咲希 (小四)

ふんじやつた地面に落ちた银杏の実

大垣市

安田 悠人 (小五)

ハロウィーン友達みんなをおどろかし

大垣市

大橋 あおい (小五)

銀やんま赤い夕日へ消えていく

大垣市

白石 瑚々海 (小五)

帰り道茶色の落ち葉ふみ歩く

大垣市

大橋 心麦 (小六)

おいしいな祖母からもらった栗ごはん

大垣市

子安 時生 (小六)

父さんの大きな背中に小鳥来る

大垣市

多賀 史奈 (小六)

外歩き落ち葉の雨が降ってくる

大垣市

木下 優花 (小六)

草むらで耳をすませば虫の声

大垣市

豊永 直斗 (小六)

入選

うんどうかいかけっこ一番とりたいな

大垣市

はぎの いつき(小三)

かそうしておうちにまわるハロウィンだ

大垣市

金子 にご(小三)

わたりどりルートをおしえてくださいな

大垣市

日比 海斗(小三)

ハロウィンにハデなかつこうしてきたよ

大垣市

木下 湊翔(小三)

のきしたのほしがきひとつつまみぐい

大垣市

浅野 未結(小五)

土をほる少し見えたよさつまいも

大垣市

高坂 紬(小五)

トンボはね夕日になるとわいてくる

大垣市

高橋 凜(小五)

いいにおいとなりの家でさんま焼く

大垣市

奥田 一希(小五)

雲が出て顔が見えないお月様

大垣市

石谷 颯志(小五)

鯛雲空一面を泳いでる

大垣市

安田 龍生(小六)

熱たい夜寝返り何どもねむれない

大垣市

坪内 美月(小六)

虫たちが草むらの中大合唱

大垣市

平野 康介(小六)

金木せいあたり一面いいにおい

大垣市

伊藤 衣知香(小六)

虫の声おわりのみえない合唱だ

大垣市

市川 瑛斗(小六)

風ふくとしずかにゆれるすすきたち

大垣市

栗田 晴(小六)

夜ご飯さんまの塩焼きおいしいな

大垣市

田山 颯太(小六)

家の庭においでつつむ金木犀

大垣市

桐山 真維(小六)

秋の蝉ささやくような声がする

大垣市

保高 杏奈(小六)

せのびして電車見送るひがん花

大垣市

伊藤 蓮人(小六)

流れぼしがねがいのをせておちてゆく

大垣市

棚橋 芽久(小四)

選者吟

朝刊をとる木犀の香の中に

幹 郎



小中学生の部